

登録コード	HM105901	開講年度	2026			
授業題目	分子病態学論文演習				担当教員	青山 琢磨
英文授業名	Thesis Seminar in Molecular Pathophysiology				副担当	沢村 達也
単位数	2	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生
講義室			授業形態	演習	備考	
信大コンピテンシー	該当					
(1)授業の達成目標/Course objectives	ディプロマポリシー・授業で得られる「学位授与の方針」要素				(授業の達成目標)	
	2026HM医学分野加, 2025HM医学分野加					
	【専攻】医学または保健学の研究に対する世界標準の専門分野における深い知識・卓越した技能				最新重要論文を読むことにより、世界の研究動向を知り、それを生かす方法を自ら考えられるようにする。	
	【専攻】医学・保健学研究において基礎・応用・臨床の枠を越え、課題の本質を見抜き解決方法を見出す洞察力				論文の内容を、自分の研究の立場に置き換えて、何ができるか、あるいはどう違うのかを認識し、自分なりに研究戦略を立てる能力を養う。	
	【専攻】医学・保健学研究の専門分野近傍の課題に対して新たな知見・技術を生み出す応用力				論文に書かれていないことや将来の展開を、提示されている情報から洞察し、自ら見つけ出す能力を養成する。	
(2)詳細 /Detailed information	病態生理学に関する最新の知見から、独自の視点により問題を発見・解決する方法を習得する。					
(3)授業の概要 /Overview of course	循環器系の病態生理学に重要な示唆を与える最新の学術論文を読み、新たな知見を習得するとともに、その論文著者の意図や工夫されている技術的内容を読み取り、そこから独自の展望をもち、自身の研究に生かす能力を身につける。 手順としては、教員と相談しながら、知識や技能の取得に役立つ最新重要論文を選択し、それを他の人にプレゼンテーションするための準備を行う。その際に、論文著者の意図だけでなく、論文に書かれていないことで何が重要なのかを掘り下げて説明できるよう、深く論文を読み込むようにする。 その上でプレゼンテーションを行い、著者や自分の意図が十分に伝えられるような技能を習得する。 また、他の人の同様なプレゼンテーションを見て、自分の技能を高めることにも力を注ぐ。					
(4)授業計画 /Course plan	教員と継続的に話し合いを行い、おおむね2週から4週間に一度、プレゼンターあるいはオーディエンスとして、論文演習を行う。(15回)					
(5)成績評価の方法・基準 /Grading/evaluation method/evaluation criteria	(i)論文の趣旨が適切に説明され、 (ii)自分の研究に置き換えた場合の意義が説明でき、 (iii)言外の意図や論文中に未提示の課題を指摘でき、 (iv) プレゼンテーションとして伝達・説得・感動を与えることができることを目指す。 これらの4項目すべてが達成されれば「卓越している（秀）」。3項目を満たしていれば「かなり上にある（優）」。(i)と(ii)ができていれば「やや上にある（良）」。(i)のみ満たされていれば「水準にある(可)」。					
(6)履修上の注意・事前事後学習の内容・テキスト・教材・参考書 /Notes/Prep work/Textbook(s)/Reference work(s)	ただ論文内容を理解するだけではなく、それをいかに発展させるかについて、プレゼンテーション以前に、十分に自分の頭を使って考えた上で、さらに教員と相談してプレゼンテーションのブラッシュアップをはかること。プレゼンテーション自体も充分練習した上で、聴衆に対する説明に臨むことを期待する。					
(7)質問,相談への対応 /Questions and requests for advice	随時質問を受け付ける。					
(8)授業の形式 /Course format	最新研究論文をベースとした、解説、討議。パワーポイントを用いたプレゼンテーション。					